

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

[http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08seisan/04\\_jyouhou/0403seiku/seiku.html](http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08seisan/04_jyouhou/0403seiku/seiku.html)

第 4 報  
千葉県農林水産部  
平成 21 年 7 月 2 日

- 「コシヒカリ」の適切な穂肥徹底
- 出穂に備えてカメムシ防除
- 出穂前 3 週間～出穂後 2 週間は湛水管理

## [生育概況]

6 月下旬は、気温が平年に比べて高く、日照時間が平年並みであったことから、「コシヒカリ」の幼穂形成期は、平年に比べてやや早く、4 月 20 日植えでは 6 月 26 日、5 月 1 日植えでは 6 月 30 日からとなっています。

また、幼穂形成期における「コシヒカリ」の生育は平年並みです。

出穂期は、「ふさおとめ」が 7 月 12 日頃、「ふさこがね」が 7 月 14 日頃、「コシヒカリ」では、4 月 20 日植えが 7 月 19 日頃、5 月 1 日植えが 7 月 25 日頃からと予測されます。

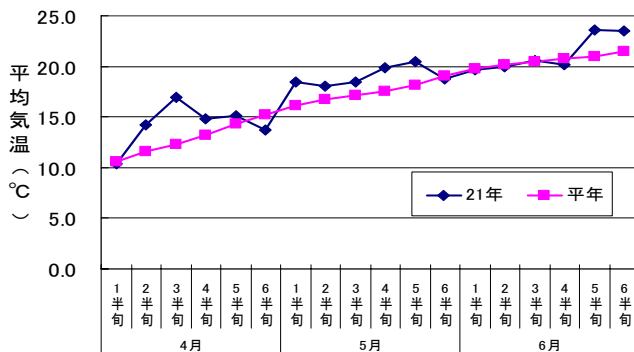


図 1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

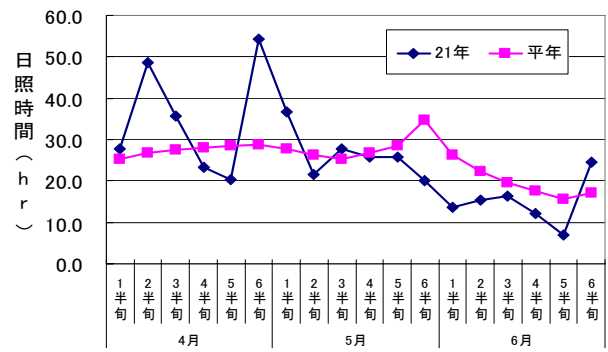


図 2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

表 1 「コシヒカリ」の幼穂形成期の生育状況

品種	植付時期	平年遅速	平年比		
			草丈	茎数	葉色
コシヒカリ	4 月 20 日頃	やや早	並	並	並
	5 月 1 日頃	やや早	並	並	並

※県内 10 地点の調査結果 (平均値)

表 2 品種別の出穂期予測と冷害危険期

品種	植付時期	出穂期予測				冷害危険期
		県北	九十九里	内湾	県南	
ふさおとめ	4 月 20 日	7 月 19 日	7 月 12 日	7 月 12 日	7 月 12 日	7 月 14 日頃まで
ふさこがね	4 月 20 日	7 月 19 日	7 月 17 日	7 月 16 日	7 月 14 日	7 月 14 日頃まで
コシヒカリ	4 月 20 日	7 月 25 日	7 月 23 日	7 月 21 日	7 月 19 日	7 月 4 日頃から
	5 月 1 日	7 月 27 日	7 月 26 日	7 月 25 日	7 月 25 日	7 月 9 日頃から

※幼穂形成期の実測値 (調査地点: 千葉市) からの推定値。

## [これからの管理のポイント]

### ■ 「コシヒカリ」の管理

#### ○ 幼穂を確認して適期穂肥に備えよう

穂肥の適期を判断するためには、幼穂を確認するのが一番です。

幼穂形成期は幼穂長 1mm(出穂 25 日前)の株が全体の 8 割に達した時点です。ここから数日でお穂 3 週間前(湛水管理開始期)になります。

穂肥の適期は幼穂長 10mm (出穂 18 日前)です。

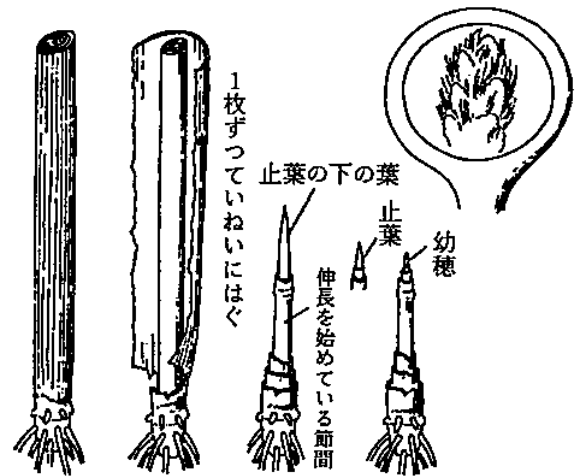


図 3 幼穂の確認方法

表 3 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色× 莖数/m <sup>2</sup>	草丈 (cm)	予測される生育・収量	対策
16,000 以下	70cm 未満	倒伏は避けられるが、籾数が不足しやや減収となる。	穂肥の増量。又は時期を 2~3 日早める。
16,000 ~20,000	70cm 未満	穂肥施用により目標どおりの生育が期待できる。	出穂前 18 日に、標準量の穂肥を施用する。
	70~80cm	穂肥施用による籾数確保は必要だが、穂肥施用によって稈長が伸び、倒伏が心配される。	穂肥と倒伏軽減剤とを組み合わせる。
20,000 ~27,000	75cm 未満	穂肥施用による倒伏の心配は少ないが、籾数過剰となり、乳白米の発生が心配される。	穂肥の施用量を減らす(窒素施用量 1~2kg/10a)か、時期を遅らせる。
	75~82cm	穂肥施用により籾数過剰となる。穂肥を施用しなくても稈長が伸び過ぎて倒伏が心配される。	穂肥は施用せず、倒伏軽減剤のみ施用する。

※葉色は葉色はSPAD値

表 4 幼穂形成期の生育目標

草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (カラースケール値)
70 以下	430~560	3.5~4.0

表 5 主な倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期/使用回数	10a 当たり散布量	処理方法
ロミカ粒剤	出穂 25~10 日前まで/1 回	2~3kg	湛水散布
スマレクト粒剤	出穂 20~7 日前/1 回	2~3kg	湛水散布
ビピフルフロアブル	出穂 10~2 日前/1 回	75~100ml	莖葉散布

## ○ 幼穂形成期に入ったら湛水管理

幼穂形成期に入ったら、自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために湛水しましょう。

## ■ 「ふさおとめ」と「ふさこがね」の管理

### ○ 湛水管理を徹底しよう

「ふさおとめ」と「ふさこがね」は既に出穂まで3週間以内になっています。自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために湛水しましょう。

## ■ 水管理の原則

### ○ 中干しから出穂後までの水管理

自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために、基本的な中干しの他に③を行うことが有効です。「安心・安全」な米作りのために対策を励行しましょう。

※食品衛生法のコメ規格基準の見直しに伴い、今年度中にカドミウムの残留基準が

1.0ppm から 0.4ppm に引下げられる見込み

- ① 中干しは強過ぎないように、土が湿って足跡が残る程度
- ② 中干しから出穂3週間前までは間断かんがい
- ③ 出穂前3週間～出穂後2週間は湛水管理
- ④ 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

### ○ 低温時には湛水

幼穂形成期以降に平均気温 20℃以下の低温持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。

表 6 低温時湛水深の目安

幼穂形成期（出穂 25 日前）から冷害危険期（出穂 15～10 日前）	湛水深 10cm 程度
冷害危険期（出穂 15～10 日前）	湛水深 20cm 程度

## ■ 斑点米カメムシ類の防除

斑点米カメムシ類は、水田周辺に生息していた成虫が水稻の出穂後に水田に侵入して産卵します。斑点米の被害は成虫よりも幼虫の被害が大きく、乳熟期～糊熟期の吸汁によって被害が発生します。出穂が周辺よりも早いものや遅いものは集中的な加害を受けることがあるので、注意が必要です。

出穂期を想定しながら、次の防除対策を励行しましょう。

### ○ 出穂2週間前までの雑草防除

出穂直前の畦畔雑草はカメムシ類が水田に侵入するのを助長します。また、出穂期前後の草刈りはカメムシ類を水田の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂2週間前頃までに刈り取りましょう。

## ○ カスミカメムシ類への注意

アカスジカスミカメ等のカスミカメムシ類は、クモヘリカメムシやホソハリカメムシ等の主要な斑点米カメムシ類に比べると身体が小さく目立たちにくい昆虫です。天候と生育の関係で登熟中の籾殻が開く（籾割れ・ふ割れ）と、開いたか所から吸汁し被害を与えます。水田をよく見回って確認しましょう。

## ○ 薬剤防除

表 7 斑点米カメムシ類の防除薬剤

薬剤名	使用時期/使用回数	10a 当たり散布量
有機リン系		
エルサン粉剤 3DL	収穫 7 日前まで/2 回以内	3kg
スミチオン乳剤 1,000 倍液	収穫 21 日前まで/3 回以内	120~140 リットル
スミチオン粉剤 3DL	収穫 21 日前まで/3 回以内	3~4kg
パイジット粉剤 2DL	収穫 14 日前まで/3 回以内	3~4kg
合成ピレスロイド系		
MR.ジョーカー-EW 2,000 倍液	収穫 14 日前まで/2 回以内	60~150 リットル
MR.ジョーカー粉剤 DL	収穫 7 日前まで/2 回以内	3~4kg
トレボン粉剤 DL	収穫 7 日前まで/3 回以内	3~4kg
トレボン MC 2,000 倍液	収穫 21 日前まで/3 回以内	120~140 リットル
ネオニコチノイド系		
ベストガード粉剤 DL	収穫 14 日前まで/4 回以内	4kg
スタークル (アルバリン) 顆粒水溶剤 2,000 倍液	収穫 7 日前まで/3 回以内	60~150 リットル
スタークル (アルバリン) 粉剤 DL	収穫 7 日前まで/3 回以内	3kg
ダントツ水溶剤 4,000 倍液	収穫 7 日前まで/3 回以内	60~150 リットル
ダントツ粉剤 DL	収穫 7 日前まで/3 回以内	3~4kg
その他		
キラップ粒剤	収穫 14 日前まで/2 回以内	3kg
有機リン+カーバメート系		
エルサンバッサ粉剤 20DL	収穫 7 日前まで/2 回以内	3~4kg

## ■ 紋枯病の防除

茎数過多で気温が高いと紋枯病が発生しやすくなります。紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。ほ場をよく観察し、表 8により防除しましょう。

表 8 紋枯病の防除薬剤

作用性	薬剤名	使用時期/使用回数	10a 当たり散布量
予防	モンガリット粒剤	収穫 45 日前まで/2 回以内	3~4kg
予防・治療	モンカット粒剤	出穂 30~10 日前、ただし収穫 45 日前まで/3 回以内	3~4kg
予防・治療	モンセレンフロアブル 1,500 倍液	収穫 21 日前まで/4 回以内	120~150 リットル
予防・治療	モンセレン粉剤 DL	収穫 21 日前まで/4 回以内	3~4kg
予防・治療	バシタック水和剤 75 1,000~1,500 倍液	収穫 14 日前まで/3 回以内	120~150 リットル
予防・治療	モンカットファイン粉剤 20DL	収穫 14 日前まで/3 回以内	3~4kg
予防・治療	モンカットフロアブル 1,000~1,500 倍液	収穫 14 日前まで/3 回以内	120~150 リットル
治療	バリダシン液剤 5 1,000 倍液	収穫 14 日前まで/5 回以内	120~150 リットル
治療	バリダシン粉剤	収穫 14 日前まで/ー	3~4kg

※ 粒剤は出穂 20 日前頃に散布する。散布後は水深を 3~5cm に保つ。

※ 粉剤・水和剤は出穂 15 日前頃の発病株数が 15%以上のとき、穂ばらみ後期までに散布する。その後病勢が抑えられない場合は、穂揃期頃に追加散布を行う。

## ■ いもち病の防除

葉いもちの発生しているほ場では、穂いもちの感染のおそれが大きくなっています。穂いもちは出穂時に感染するので、葉いもちの発生しているほ場では出穂前に薬剤防除を行いましょ。薬剤は6ページの表 9を参照してください。

## ■ 農薬の飛散防止

農薬の散布に当たっては、周辺への飛散を防止するため次に示す事項に注意しましょう。

- 風の弱いときに風向きに注意して散布する
- 散布の方向や位置に注意する
- ドリフト低減ノズルなど適切なノズルを用い、適正な圧力で散布する
- 適正な散布量で散布する
- タンクやホースの洗浄を徹底する
- 近接する住宅や作物の生産者等と連携する
- 緩衝地帯を設ける
- 遮蔽物を設ける
- 飛散しにくい農薬や剤型を選ぶ



図 3 ふさこがね 7月2日 千葉市緑区刈田子町

表 9 いもち病の主な防除薬剤

作用性	薬剤名	使用時期／使用回数	使用時期／使用回数の注記	10a 当たり散布量
予防	オリゼメート粒剤	右記/2回以内	葉いもちには初発 10 日前から初発時に、穂いもちには出穂 3~4 週間前（ただし、収穫 14 日前まで）に散布	3~4kg
	キタジンP 粒剤	右記/2回以内	葉いもちには初発 7 日前から初発時に、穂いもちには出穂 7~20 日前に散布	3~5kg
	コラトップ粒剤 5	右記/2回以内	葉いもちには初発 10 日前から初発時に、穂いもちには出穂 30~5 日前に散布	3~4kg
	// ジャンボ	右記/2回以内	葉いもちには初発 20 日前から初発時に、穂いもちには出穂 30~5 日前に散布	10~13 個
	ブイゲット粒剤	収穫 45 日前まで/2回以内	葉いもちには初発 20~7 日前に散布	3kg
	フジワン粒剤	収穫 30 日前まで/1回以内	葉いもちには初発 10~7 日前に、穂いもちには出穂 30~10 日前に散布	3~5kg
	ラブサイド粉剤 DL	収穫 7 日前まで/右記	6 回以内（ただし、穂ばらみ期以降は 4 回以内）	3~4kg
予防・治療	イモチエース粒剤	収穫 35 日前まで/1回以内		3kg
	カスラブサイド粉剤 DL	収穫 14 日前まで/右記	5 回以内（ただし、穂ばらみ期以降は 4 回以内）	3~4kg
	ヒノザン 粉剤 25DL	収穫 21 日前まで/3回以内		3~4kg
	// 乳剤 30 1,000 倍液	収穫 21 日前まで/3回以内		100~120リットル
	ブラシン 粉剤 DL	収穫 21 日前まで/2回以内		3~4kg
	// フロアブル 1,000 倍液	収穫 21 日前まで/2回以内		100~120リットル
治療	カスミン 粉剤 DL	収穫 14 日前まで/5回以内		3~4kg
	// 液剤 1,000 倍液	収穫 14 日前まで/5回以内		100~120リットル

表 10 稲こうじ病の主な防除薬剤

薬剤名	使用時期／使用回数	10a 当たり散布量
モンガリット粒剤	収穫 45 日前まで/2回以内	3~4kg
ブラシンフロアブル 1,000 倍液	収穫 21 日前まで/2回以内	120~150 リットル
ブラシン粉剤 DL	収穫 21 日前まで/2回以内	4kg
ラテラ粉剤 DL	収穫 14 日前まで/3回以内	3~4kg
撒粉ボルドーDL	出穂 10 日前まで/ー	3~4kg
Z ボルドー粉剤 DL	出穂 10 日前まで/ー	3~4kg

※ モンガリット粒剤は出穂 3~2 週間前に、必ず湛水した水田に処理し、その後 7 日間は止水する。